

令和4年1月6日

隠岐支庁農林水産局農業振興部

標 題

4町村連携による「隠岐産牛」としての産地づくり確立に向けて
～第1段：受精卵移植を実施～

(ダイジェスト)

令和3年11月26日、4町村連携による「隠岐産牛」の産地づくり構想として、取組の1つである受精卵移植を隠岐の島町で実施しました。今回は、県有卵を移植しましたが、今後は隠岐の優良雌牛からの採卵による移植も予定しています。

隠岐地域は、広大な牧野を活用した和牛繁殖経営による肉用牛生産が盛んで、県内の主要産地となっています。

一方、足腰が強く長持ちすることから繁殖牛1頭が長く活用され、繁殖牛の更新や母牛能力に着目した優良牛の維持が進んでいない現状にあります。

そのため、放牧で育まれた能力を売りとして新たな産地力・ブランド力を形成するため、今年度4町村連携により「隠岐産牛」としての産地づくり構想を策定し、以下の取組みを進めています。

- 1 生産拡大（受精卵移植技術を活用した繁殖雌牛改良、放牧を活用した低コスト生産の強化）
- 2 新たな担い手確保（放牧場や空き牛舎を有効活用する包括的就農パッケージ整備、新規就農者の技術研修体制の構築）
- 3 隠岐産牛として販売（4町村連携による隠岐産牛ブランドの確立（強化））

今回、繁殖素牛の能力向上を目的に、アンケート結果等から受精卵移植に関心のある畜産農家5戸、計8頭に移植を実施しました。今年度、隠岐の島町では計30頭の受精卵移植を実施する予定です。また、並行して、隠岐系統牛から母牛能力の高い繁殖雌牛を選定し、採卵による受精卵移植を島前地域では今年度、島後地域では来年度実施する予定です。

今後も、繁殖素牛の能力向上をはじめ、新規就農者の確保など産地づくり構想の目標達成に向け4町村、生産者団体が連携し、取り組んでいきたいと考えています。



【受精卵移植の様子】